

Public Forum “Concept and Implementation of Satoumi”報告

柳 哲雄

上記Forumが2013年5月8日（水）午後アメリカ・フロリダ州・SarasotaにあるMote海洋研究所で開催された。

Mote海洋研究所は実業家W.R.Mote氏の基金を元に60年前に設立された「地域のための海洋研究所」で、大学、地方・中央政府とは無関係の独立公益法人である。年間予算は18億円で、このうち11億円を海洋環境科学・水産増養殖学・海洋生物学などの研究費にあて、80名の研究者と30名のP.D.を含む200名のスタッフで運営している。特筆すべきは、この研究所は自らの水族館を持つとともに、専用の建物で環境教育も実施しているが、このような外部への広報活動を支えているのは、1,600人に達する地元ボランティアだということである。研究所の予算は11,400人に達する会員の会費と様々な寄付金、委託研究費、水族館・環境教育などの事業収入で支えられている。昨年度の研究所訪問者は35万人に達し、Sarasotaの地域経済に70億円の貢献をしたそうである。

Sarasota湾では1960年代、水質悪化・赤潮頻発・アマモ場減少・過剰漁獲などにより、この地域の名物だったホタテ貝漁が壊滅した。ホタテ貝が地元観光資源・水質浄化・他の魚の餌・水質指標として、言わば「環境アイコン」（兵庫県豊岡市のコウノトリのような、地元住民と環境との関わりを象徴する生物）として有用であるというMote海洋研究所の研究者の指摘を元に、フロリダ州環境・水産局も参加して、1990年代から研究所で育てたホタテ貝種苗を、環境教育のひとつとして、地元の中高生や市民を巻き込んで放流することが行われてきた。また市民や学生による海岸清掃・ホタテ貝資源量モニタリング・集水域の水質監視などの環境保全活動も活発化した。

その結果2000年代になり、Sarasota湾の水質は改善し、アマモ場の面積も増大したが、増えたホタテ貝は多くがエイの餌となり、増えたエイによりサメの稚魚が捕食されてサメが激減するという、複雑な食物連鎖の変化が現在のSarasota湾では起こっている。

Forumには漁民・市民・行政担当者など100名が参加し、最初にMote研究所のM.Crosby副所長（2013.5.16より所長に就任予定）が、今回のForumは海洋資源の再生・監視・持続的使用のための科学者と市民の協働を目指して企画されたこと、Satoumiがそのための有用な概念になる可能性があることを述べ、話題提供者の簡単な略歴紹介を行った。次いで佐藤教授（総合地球環境学研究所）が、沿岸海域の環境改善のためには科学知と地域知を統合する必要があり、Satoumi概念は沿岸海域の異なる利害関係者の自然との関係を調整するために有用だが、それを実際に行うためには、地域で生活しながら研究活動を行う「滞在型研究者(Residential Researcher)」の果たす役割が大きいことを指摘し、彼らが、科学知を住民に説明し、かつ地域知を科学者に説明するという、双方向型翻訳者の役割を果たすことが重要であると述べ、沖縄の恩納村や白保における住民と科学者による沿岸海域環境改善成功例を紹介した。次にCrosby博士がSarasota湾におけるアコヤ貝資源復活の試みと現在の状況を説明した。三番目にC.Macho博士（スペイン・Vigo大学）は、スペインGalicia地方では1980年代にベントス・貝類を含む底生水産資源の減少が顕著になってきたので、地方政府が漁民・市民・行政・科学者による協議会を立ち上げ、経験知と科学知を融合させて、「どこで、何を、どれだけ漁獲することが持続可能な漁業につながるか」を検討し、各地で試行錯誤を行った。その結果2000年代に入って漁獲量は増加し始めた。現在この協議会では環境データに加えて資源量調査結果・漁獲努力量データなどを含むデータベースを構築し、それらを漁民に周知して、翻訳者が説明し、順応的水産資源管理の確立に努めているという報告を行った。最後に柳がSatoumi概念の詳しい説明と日本・世界におけるSatoumi創生活動例を紹介した。

次いで3人の話題提供者に地元の水産物流通業者・沖縄の漁民を加え、Crosby博士の

司会でパネルディスカッションと総合討論が行われた。地元の漁民・市民・行政担当者から様々な質問・意見が話題提供者やMote海洋研究所に対して行われた。彼らの質問に丁寧に答えているCrosby博士の姿が印象的であった。

今回のForumは新聞・ラジオ・テレビで案内されただけで、特別な動員はかけなかつたが、Satoumiというような地元の人が全く知らないタイトルのForumに、平日の午後100名もの市民が参加し、意見を述べるという事実は、Mote海洋研究所と地元の人々の間に確かな信頼関係が構築されていることを示唆している。最後にCrosby博士が、現在のSarasota湾の困難な状況を必ず克服し、10年後には豊かなSarasota湾を実現することを宣言し、2014年11月にSatoumiに関連しそうな世界中の水産関係者をSarasotaに招へいし、大規模なSymposiumを開催する予定であることを述べて、このForumを終了した。